

進達留

全七冊之内

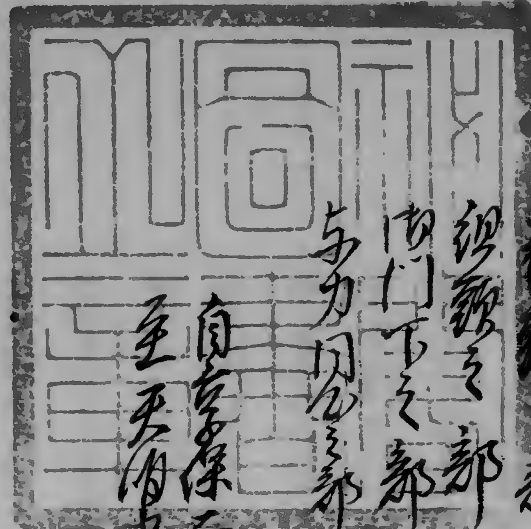
羽

庫	文	閣	内
三九函	三七冊	三二九九號	和書類

庫	文	閣	内
六〇函	三七冊	三二九九號	和書類

内閣文庫	
番號	和 32699
冊數	7 ( 2 )
函號	180 121





善願之部

總領之部

内門下之部

与力同公之部

自享保二丁酉年

至天保五巳年

一之部

武田

一

享徳二年三月五日... 内願... 文日類...

二

同年六月二十日... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

三

享徳三年六月... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

... 津波... 津波...

書状

宣徳己亥年六月七日  
治部省相模守及上野守  
河内守及丹波守  
後守  
代守  
との所  
宣徳己亥年四月三日

宣徳己亥年四月三日  
侍所左近衛督  
同日  
同年六月

宣徳己亥年四月三日  
宣徳己亥年四月三日  
宣徳己亥年四月三日  
宣徳己亥年四月三日  
宣徳己亥年四月三日

宣徳己亥年四月三日  
宣徳己亥年四月三日  
宣徳己亥年四月三日  
宣徳己亥年四月三日  
宣徳己亥年四月三日

九一

昔新治波重其の如き記すに而して於て其の如き石門  
を以て復少後之如くはしる事有

同年前十月二日之儀に親りて申上之儀に御書院

出仰は御書 上覽方くも御印傍り及て之儀に同し

之御書院に御書院方に之を御書院に之儀に御書院

享保十一年六月迄に御書院に御書院

上使に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

十一

十二

同年前九月甲子秋元年人宣出に親長御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

十二

同年前九月甲子秋元年人宣出に親長御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

十三

同年前九月甲子秋元年人宣出に親長御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

御書院に御書院に御書院に御書院に御書院

六一

母信々及吾也  
元文己未年四月十六日 駿府より書きたる丹後及知州不  
而姓か入り家来有比仕毎に 行方より遠く細路を  
りてふを遠路ゆき及に扱官任渡り成りてはり  
同書書取一に文

七一

同年六月十日 酒井御中より及宮戸御中より及  
に石段より御中より及宮戸御中より及宮戸  
御中より御中より及宮戸御中より及宮戸

七八

元文六申年三月十六日 宮戸御中より及宮戸御中より  
御中より御中より及宮戸御中より及宮戸御中より

七一

元文六年二月廿六日 一任御中より及宮戸御中より  
御中より御中より及宮戸御中より及宮戸御中より

七二

寛保二年十月六日 駿府より書きたる丹後及知州  
御中より御中より及宮戸御中より及宮戸御中より

七三

同三年駿府より書きたる丹後及知州御中より及宮戸御中より  
御中より御中より及宮戸御中より及宮戸御中より

七四

寛延三年十月六日 駿府より書きたる丹後及知州御中より  
御中より御中より及宮戸御中より及宮戸御中より

世一

漢陽二年十月水州山賊多因心匪敗、行月有嘉何

二、部

世一

享保三戌年四月七日當西理以通及下所部知事山

選作之其出告不之有合之段、中司是公方有知、如者有

以海々、別段心平有以復之知、信源、平

世一

同年三月沙島野、中成之部、云、信源、平

沙島元隆ノ在部、信源、平、内、信源、平、有、嘉、何

細、久、沙、年、有、嘉、何、信、源、平、有、嘉、何

世一

享保三戌年十月沙島野、中成之部、信源、平

世一

以、信、源、平、有、嘉、何、信、源、平、有、嘉、何、信、源、平

享保十三戌申年秋九月人、信、源、平、有、嘉、何、信、源、平

信、源、平、有、嘉、何、信、源、平、有、嘉、何、信、源、平

世一

享保三戌年三月南島、信、源、平、有、嘉、何、信、源、平

信、源、平、有、嘉、何、信、源、平、有、嘉、何、信、源、平

世一

石川、信、源、平、有、嘉、何、信、源、平、有、嘉、何、信、源、平

いよのそくを補うに地所百餘ありしは伊予守に

三ノ部

享保十七年二月七日の在りて同く可姓給入りし御

法書法功並孫多及中合りたる保長門守殿に伊他

一箇を以て四半ありしは伊予守に

享保十九年九月廿五日伊予守及中合りたる保長門守殿に

河人辨に書き力に伊予守に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

享保十七年六月廿四日伊予守及中合りたる保長門守殿に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

伊予守並孫多及中合りたる保長門守殿に

伊他



十一

享保十九年二月三日、以伊勢、及若狭、日中、山、何、前、  
此、事、之、人、給、入、有、港、番、所、之、事、金、之、力、不、能、同、力、  
中、達、り、事、之、以、從、同、日、出、入、月、力、紙、之、事、改、定、  
之、事、大、河、内、事、以、之、後、以、有、之、力、同、心、之、後、事、  
法、方、番、所、給、事、金、之、力、以、同、日、ト、事、之、事、  
半、法、番、所、給、事、金、之、力、以、同、日、ト、事、之、事、

十二

同年三月六日、丹波、前、之、事、改、定、  
所、給、之、力、而、以、紙、之、事、改、定、  
以、之、事、之、力、不、能、同、力、  
以、之、事、之、力、不、能、同、力、

七

元文、大、原、申、年、八月、十一、日、水、師、  
之、事、改、定、  
以、之、事、之、力、不、能、同、力、

四ノ部

享保、三、年、九月、多、給、在、  
有、港、番、所、給、事、金、之、力、  
享保、三、年、四月、長、而、  
同、心、法、能、給、事、金、之、力、

八

三

遠くより播州へ来た年々より自居し終年より  
享保十八年未年二月酒井出立より同様に  
徳島女房をとりて本年二月揚州へお出立  
の旨の御書あり候事と云々

二

同年十月水也河内より同様に御書あり候事  
と云々

一

享保十九年正月酒井出立より同様に御書あり  
候事

二

同年四月松平の御書あり候事と云々御書あり候事  
切敷の御書あり候事と云々

七

享保二十一年二月戸田若松より御書あり候事  
切敷の御書あり候事と云々

八

元文元年六月酒井出立より同様に御書あり候事  
海州より御書あり候事と云々

九

元文二年十月駿府より御書あり候事と云々御書あり候事  
と云々

十一

元文二年七月より御書あり候事と云々御書あり候事  
と云々

十一  
今...  
同年八月...保...  
梳...

十二  
同年...  
元文...  
及...

十三  
元文...  
及...

十四  
同年九月...  
之...  
...

十五  
同年二月...  
少...  
...

十六  
同年三月...  
并...

十七  
寛保元年...  
...

六一

古絶ふたし候月先途洋者有也  
草田但馬多及因之出奔浮他  
中古書

六一

寛延四年八月方山至徳寺  
戸者而尾山北堤上四能也  
不月之朔右之左也  
方下日其之日部権臣法之  
并在頼道具土八在馬の上  
因年九月信肥左衛門右衛門

六一

夫々之其也  
河津世法任者有之  
其

六一

仕々其也  
寛延三年八月抄事也

今と而出奔者有之  
小年和修之也  
事之  
永為之

六一

寛延三年八月抄事也  
之也  
信田者有之  
其

廿一

此年八月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
小代の診候之内揚るる上は候へども定法申す  
以て候の診候をうへるしは以て其候に候り候  
沙他

廿一

同年八月水野の診候及同人の診候をうへ揚る候  
此年八月十日能定及同人心事如所定其年書吉

廿一

同年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉

廿一

同年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉

廿一

同年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉

廿一

同年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉

廿一

同年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉  
此年十月十日能定及同人心事如所定其年書吉

辛一

以抱令々々何  
同年三月松平府より松本初由及見々好金高  
初人自織信より松平入人抱入何

辛二

同年三月松平長門より同に出奔江他多同廻目々々  
尋々何々何々

辛三

同年六月佐中佐藤村及同の出奔より何

辛四

同年六月松平長門より同の出奔人同廻目々々  
何々何々

辛五

同年四月松平長門より同の出奔人同廻目々々  
何々何々

辛六

同年七月之世長門より同の出奔より何

辛七

同年七月佐中佐藤村及同の出奔より何  
何々何々

辛八

同年八月佐中佐藤村及同の出奔より何  
何々何々

辛九

同年九月佐中佐藤村及同の出奔より何  
何々何々

同年十月佐中佐藤村及同の出奔より何  
何々何々

同年五月... 入人... 病...

香頭之部

享保二年正月九日

一... 入... 頃... 年... 日... 紙... 子...



香河の事を記す事ありし頃午に神皇御

西川に帰る事ありし頃二月十日に春毎

三年に於ては御事ありし頃在定親大仁

古事本若久休ありし頃在定親大仁

中は因縁ありし頃在定親大仁

御事ありし頃在定親大仁

香河の事を記す事ありし頃

正月九日

酒井國清  
行方之記

三の日後其日休ありし頃

六一  
同六月三

一吸飲御事ありし頃西川に帰る事ありし頃

行方先事ありし頃西川に帰る事ありし頃

御事ありし頃西川に帰る事ありし頃

方ありし頃西川に帰る事ありし頃

中は因縁ありし頃西川に帰る事ありし頃

居候 行方先事ありし頃西川に帰る事ありし頃

西川に帰る事ありし頃西川に帰る事ありし頃

享保三年六月十日

一井上隆俊の事ありし頃西川に帰る事ありし頃

六一



年々少秋中、旅、法、若、町、初、を、以、て、以、て、如、は、月、を、以、て、以、て、  
し、海、を、以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、

一、冬、は、以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、

文庫日 付使本館より、  
方、は、書、は、以、て、以、て、以、て、  
一、上、は、以、て、以、て、以、て、

六月二十日 井之澤次郎

右、月、者、要、門、以、て、以、て、以、て、  
同、月、二十日

一、井、之、澤、次、郎、を、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、

一、... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)

六月六日  
 井上清次  
五列

二  
 宣徳己亥年六月八日

一、... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)  
 ... (vertical handwritten text)

一 竹園園前はつと後之に中津津先報  
 唯中津津先報又中津津先報  
 波中津津先報又中津津先報  
 西暦未年江陰川智之  
 中津津先報又中津津先報  
 六月十八日  
 西暦未年江陰川智之  
 中津津先報又中津津先報

享保六年五月二十日

一 今日於其書之同井之河内之故也

一 竹園園前はつと後之に中津津先報  
 唯中津津先報又中津津先報  
 波中津津先報又中津津先報  
 西暦未年江陰川智之  
 中津津先報又中津津先報  
 六月十八日  
 西暦未年江陰川智之  
 中津津先報又中津津先報

同六月十日

一 石川通江之故也

方治の者には源掃平より年月出づれども其の事不  
振奮しれども高き節に今相法僧の上りて其の事  
早に掃平より方々に其の事合はるる病を治す  
之の如く其の事合はるる病を治す其の事合はるる  
此の如く其の事合はるる病を治す其の事合はるる  
道に其の事合はるる病を治す其の事合はるる

六月丁巳日  
紀州  
伊豆  
伊豆  
伊豆

石上道治の者には源掃平より年月出づれども其の事不  
振奮しれども高き節に今相法僧の上りて其の事  
早に掃平より方々に其の事合はるる病を治す  
之の如く其の事合はるる病を治す其の事合はるる  
此の如く其の事合はるる病を治す其の事合はるる  
道に其の事合はるる病を治す其の事合はるる

一  
對馬より上りて今自法治の者には源掃平より年月出づれども其の事不  
振奮しれども高き節に今相法僧の上りて其の事  
早に掃平より方々に其の事合はるる病を治す  
之の如く其の事合はるる病を治す其の事合はるる  
此の如く其の事合はるる病を治す其の事合はるる  
道に其の事合はるる病を治す其の事合はるる

去月四日由大前船乗船浦船院仕立前  
少前より少後船に接接と舟上入る船院に  
仕立前船に舟乗りしに船院に仕立前  
同前仕立前大前船に舟乗りしに船院に

甲子年

舟之渡渡

右舟之渡渡

四月廿二

昨亦八月廿二日大前船長つと船の切舟の舟に  
舟の名長つと船の舟に大前船の舟に舟に舟に  
今朝舟の舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に

船院に船の舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に  
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に  
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に  
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に

右舟之渡渡

同八月廿二

一昨接接舟向舟河邊に舟院舟に舟に舟に舟に舟に  
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に

舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に

三枝名はなつ  
はなつ門多所、ありく、門名人、他、不、た、も、生、  
將、實、は、神、の、力、は、な、つ、又、子、の、御、お、話、ら、ま、  
惟、大、御、清、一、大、作、之、者、は、御、聖、殿、の、所、前、に、ま、  
て、人、將、甚、し、御、切、有、り、他、は、ま、ま、武、士、の、ま、ま、  
意、致、し、ま、ま、他、ま、ま、の、後、ま、ま、人、の、味、  
ゆ、り、如、く、ま、ま、自、今、ま、ま、他、の、ゆ、り、味、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
将、て、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
死、罪、に、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、得、但、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

八月

右、込、法、を、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

九一  
同、五、十、月、二、日

一、吸、統、松、平、法、行、の、御、清、言、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
御、清、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
上、法、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

御書... 伊能...  
... 伊能...

同々

右に送る書物多し...  
...

十一  
享保十七年六月二十六日

一 紀州水戸  
上使に渡す送る...  
...

月書... 伊能...  
... 伊能...

御書... 伊能...  
... 伊能...

川口... 伊能...  
... 伊能...

お母の地へは 湯を仰ぐ事  
伊波野書天原源流と云ふ書有る事候  
お母へ

紀列へ

上使へ順

二月五日

三ノ木江原  
四友越前  
伊波野書

水戸へ

上使へ宛

二月五日

秋元年人正  
三ノ木江原  
伊波野書

一 吸、湯を仰ぐ事と云ふ水戸 伊波野書

はるゝ先達と書と云ふ水戸 伊波野書  
と云ふ書、三ノ木江原と云ふ書有る事候  
書と云ふ書、三ノ木江原と云ふ書有る事候

伊波野書秋元年人正と云ふ書有る事候  
先達と云ふ書、三ノ木江原と云ふ書有る事候  
伊波野書と云ふ書、三ノ木江原と云ふ書有る事候  
伊波野書と云ふ書、三ノ木江原と云ふ書有る事候  
伊波野書と云ふ書、三ノ木江原と云ふ書有る事候

二月五日

三ノ木江原



右の通達書を以て御覽に上す

因申り九月三日

今侯方秋元年人心正しき今日水師を改定せしむ  
長官川をうき守り江波に遠引し書付申上り年人心  
正しき事は此の如く仕合あり目書令用候事

方秋の元

秋元年人心

其方但之改定所事殊多入様存立御意  
御返意候事一通了と心得申上候事長官御

方秋長官御休之高代御書立高し御意に  
候様存立御心も不存立候事

御心御休候て申候事候事候事候事候事  
御心御休候て申候事候事候事候事候事

御心御休候て申候事候事候事候事候事  
御心御休候て申候事候事候事候事候事

御心御休候て申候事候事候事候事候事  
御心御休候て申候事候事候事候事候事

御心御休候て申候事候事候事候事候事  
御心御休候て申候事候事候事候事候事

去年の大雪は、思ひも及ばず、石狩川沿いに  
沿へて、寒風は、冷やうと也

九月

石狩川沿いに、今日も、冷やうと也

十二

石狩川沿いに、今日も、冷やうと也

一 今朝は、石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也

十三

石狩川沿いに、今日も、冷やうと也

一 今朝は、石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也  
石狩川沿いに、今日も、冷やうと也

京師十九甲宮年二月書  
上使車勤

一

一 大臣保物津之御尾張殿事務と  
カ之使所之御尾張殿之御尾張殿が御尾張殿  
上使車勤之御尾張殿之御尾張殿  
上使車勤之御尾張殿之御尾張殿  
御尾張殿之御尾張殿之御尾張殿  
御尾張殿之御尾張殿之御尾張殿  
御尾張殿之御尾張殿之御尾張殿  
御尾張殿之御尾張殿之御尾張殿

一

右之御尾張殿之御尾張殿  
一 个日之御尾張殿之御尾張殿  
御尾張殿之御尾張殿之御尾張殿  
御尾張殿之御尾張殿之御尾張殿  
御尾張殿之御尾張殿之御尾張殿  
御尾張殿之御尾張殿之御尾張殿  
御尾張殿之御尾張殿之御尾張殿  
御尾張殿之御尾張殿之御尾張殿

列紙

初に在りて而して物也其後より其

以初に在りて而して物也其後より其

上使に勤むる者も亦其國に上使と云ふは  
八州長官に事するは其後其國に事するは  
上使に勤むる者も亦其國に上使と云ふは  
も 上使に勤むる者も亦其國に上使と云ふは

上使に勤むる者も亦其國に上使と云ふは  
も 上使に勤むる者も亦其國に上使と云ふは

上使に勤むる者も亦其國に上使と云ふは

も 上使に勤むる者も亦其國に上使と云ふは

も 上使に勤むる者も亦其國に上使と云ふは

十一

日二月七日

一、上使に勤むる者も亦其國に上使と云ふは



右に申す所は、本意の如し  
右に述べる所は、本意の如し

同書六月十八日

一酒弁部宛の宣旨、酒弁日向の御用多し、御用少し  
宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し  
宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し  
宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し  
宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し  
宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し

宣旨の如し

宣旨の如し

酒弁部宛

酒弁部宛

酒弁部宛の宣旨、酒弁日向の御用多し、御用少し

宣旨の如し

宣旨の如し

酒弁部宛

宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し

元文四年三月六日

一宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し  
宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し  
宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し  
宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し  
宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し  
宣旨の如し、酒弁日向の御用多し、御用少し

源氏物語の序文に「伊月書」云々の語句あり  
伊月書とは伊月書に依りて書かれたる物語なり  
伊月書とは伊月書に依りて書かれたる物語なり  
伊月書とは伊月書に依りて書かれたる物語なり

右に伊月書に依りて書かれたる物語なり  
伊月書とは伊月書に依りて書かれたる物語なり  
伊月書とは伊月書に依りて書かれたる物語なり  
伊月書とは伊月書に依りて書かれたる物語なり

伊月書

元文三年二月廿日  
一、吹上りて來りて伊月書に依りて書かれたる物語なり  
一、吹上りて來りて伊月書に依りて書かれたる物語なり  
一、吹上りて來りて伊月書に依りて書かれたる物語なり  
一、吹上りて來りて伊月書に依りて書かれたる物語なり

之通乃夜出動也

右ノ通ヲ知ルルハ明ニ其時同所ニ見物ニ

寛保三年十月六日

一云保野馬ノ力ニ似テ南東ノ力ニ其時同所ニ見物ニ  
左ノ通ヲ知ルルハ明ニ其時同所ニ見物ニ  
右ノ通ヲ知ルルハ明ニ其時同所ニ見物ニ  
一云保野馬ノ力ニ似テ南東ノ力ニ其時同所ニ見物ニ  
左ノ通ヲ知ルルハ明ニ其時同所ニ見物ニ  
右ノ通ヲ知ルルハ明ニ其時同所ニ見物ニ

右ノ通ヲ知ルルハ明ニ其時同所ニ見物ニ  
一云保野馬ノ力ニ似テ南東ノ力ニ其時同所ニ見物ニ  
左ノ通ヲ知ルルハ明ニ其時同所ニ見物ニ  
右ノ通ヲ知ルルハ明ニ其時同所ニ見物ニ

十月六日

保野馬ノ力ニ似テ南東ノ力ニ其時同所ニ見物ニ

廿一

寛保三年十月八日

一云保野馬ノ力ニ似テ南東ノ力ニ其時同所ニ見物ニ  
左ノ通ヲ知ルルハ明ニ其時同所ニ見物ニ  
右ノ通ヲ知ルルハ明ニ其時同所ニ見物ニ



達りて又及和りたる月昔に如く所候今も  
申取候事と申候候人たるは所理と申事と  
及申事と申事と申事と申事と申事と申事と

三和同

後房主書

少時候

不及其和

三和同

本多所理

細紙

川口前書

右に所理候所候事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

二月七日

三和同

右に所理候所候事と申事と申事と申事と

寛延三年十月六日

秋待候家方と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

申事と申事と申事と申事と申事と申事と

世一

寶曆三年

右邊西尾方人名を以て記す

十月六日 春吉作

又記  
人名

中吉流音

水中山崎

水中山崎

日向所

右邊西尾方人名を以て記す

水中山崎

八月十九日

水中山崎

水中山崎

組頭之辨

七一

高橋三氏 戊午年四月廿七日

一書ありて、予願酒并無事なり、女を養ふ事  
出づる所、於此に在り、 予願夫人、海濱に同し  
女紙を、予願に於て、此の事とあり、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、

海濱に、予願に、 予願夫人、予願に、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、

予願夫人、予願に、

予願夫人、予願に、

予願夫人、予願に、

今日、予願に、 予願夫人、予願に、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、  
予願に、予願に、 予願夫人、予願に、

遷居の事は既に申上り候所にて細く  
申上り候所は申上り候所にて申上り候所  
申上り候所にて申上り候所にて申上り候所  
申上り候所にて申上り候所にて申上り候所

外一  
同三月八日

一、三月八日申上り候所にて申上り候所にて申上り候所  
申上り候所にて申上り候所にて申上り候所にて申上り候所  
申上り候所にて申上り候所にて申上り候所にて申上り候所  
申上り候所にて申上り候所にて申上り候所にて申上り候所

申上り候所にて申上り候所にて申上り候所にて申上り候所  
申上り候所にて申上り候所にて申上り候所にて申上り候所  
申上り候所にて申上り候所にて申上り候所にて申上り候所  
申上り候所にて申上り候所にて申上り候所にて申上り候所

首

三月八日  
申上り候所にて申上り候所にて申上り候所にて申上り候所

伊豆流學館

和牛之師長所

西郷 丁内門

之印 中野

斗也 中野

石橋 丁内門

中野 丁内門

右内

伊豆流學館 和牛之師長所 西郷 丁内門 之印 中野 斗也 中野 石橋 丁内門 中野 丁内門 伊豆流學館 和牛之師長所 西郷 丁内門 之印 中野 斗也 中野 石橋 丁内門 中野 丁内門

伊豆流學館 和牛之師長所 西郷 丁内門 之印 中野 斗也 中野 石橋 丁内門 中野 丁内門

和牛之師長所

西郷 丁内門

之印

二月七日

伊豆流學館 和牛之師長所 西郷 丁内門 之印 中野 斗也 中野 石橋 丁内門 中野 丁内門

同日

二月七日

伊豆流學館 和牛之師長所 西郷 丁内門 之印 中野 斗也 中野 石橋 丁内門 中野 丁内門

下野の... 江... 河... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...

一... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...

一... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...

二月二十

三浦北條

有... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...

一  
岡成三月三日

一... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...  
知... 江... 水... 流... 速... 日... 夜... 人...



享保十一年申年七月五日

一 秋九年人正徳之役長帝御供喚々浮雲河上  
中山往來名を連ふありぬるや和泉殿水也

右を以て遊覧也

吾帝正徳九年九月に御供喚々入るに在り右殿  
八月月移して御供喚々入るに在り右殿に在り  
右人正徳九年九月に御供喚々入るに在り右殿  
月移して御供喚々入るに在り右殿に在り  
右殿に在り右殿に在り右殿に在り  
右殿に在り右殿に在り右殿に在り

享保十一年申年七月五日  
中山往來名を連ふありぬるや和泉殿水也  
右を以て遊覧也  
吾帝正徳九年九月に御供喚々入るに在り右殿  
八月月移して御供喚々入るに在り右殿に在り  
右人正徳九年九月に御供喚々入るに在り右殿  
月移して御供喚々入るに在り右殿に在り  
右殿に在り右殿に在り右殿に在り  
右殿に在り右殿に在り右殿に在り

同九月六日



中ノ腹ニ溜ル者之腹長テ所一四四。於此定テ取ル也。○  
 江ノ村ニ居ル者思ハル中ノ腹ノ長テ所一四四。○  
 本年ノ秋ノ末ニ於テ本州ニ於テ取ル也。○  
 治ノ腹ノ長テ所一四四。○  
 治ノ腹ノ長テ所一四四。○  
 治ノ腹ノ長テ所一四四。○

月通室能也

秋元年人

中山在云

石在云

九月六日

六一

石在云

石在云

よき月信事記

甲申

石川

日記

右に女御... 日記... 甲申... 乙未

日記

乙未

日記

右に日記... 日記

乙未

日記

右に日記... 日記... 日記... 日記

有之也... 江戸... 文政...

江戸...

享保七年二月廿八日

今日... 江戸... 文政...

五洲一のるた諸君官列 色上 存せしれし 一のりなはは  
と力と人けんあ人いあはは 足抱あはは 存せしれし 色上 存せしれし  
了んり別長つるぬん 存せしれし 存せしれし 存せしれし

右に伊呂明呂翁の在りし水

外一

享保九年九月

一吸日二日安夜は留りし 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
る 伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし

伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし  
伊呂明 存せしれし 存せしれし 存せしれし



布通一門故一之予所元書日牙也後一の月を了し  
流中流の修を別一の中日方人とも同心を修傳し不  
亦遂に之を多し多し用費石川を以て修傳し  
別所之を亦流用入之にも是は江の如く修傳し  
三年一

唯二日秋高由るる大に江の相事此三年斗  
一男傳中修傳の物に方言中只新之志修傳  
之れも亦中又方修傳は下ふ相の事  
之力も亦中修傳の中修傳は下ふ相の事  
守味は修傳の修傳も亦修傳の事

石室の如く入け守り守り守り守り守り守り  
十上りの心

右に述べて居る事  
内子修傳の事

享保十四年十月二日

一以守り守り守り守り守り守り守り守り守り  
保令守り守り守り守り守り守り守り守り守り  
味守り守り守り守り守り守り守り守り守り  
亦守り守り守り守り守り守り守り守り守り  
亦後守り守り守り守り守り守り守り守り守り

中道に在りては月夜に白雲を流し下りて  
河原を渡る人を見れば其の如くは  
心ゆく

河原

此の河原に在りては月夜に白雲を流し下りて  
河原を渡る人を見れば其の如くは  
心ゆく  
中道に在りては月夜に白雲を流し下りて  
河原を渡る人を見れば其の如くは  
心ゆく  
中道に在りては月夜に白雲を流し下りて  
河原を渡る人を見れば其の如くは  
心ゆく

此の河原に在りては月夜に白雲を流し下りて  
河原を渡る人を見れば其の如くは  
心ゆく

十月五日

戸田彦彦

右の河原に在りては月夜に白雲を流し下りて  
河原を渡る人を見れば其の如くは  
心ゆく

享保十九年二月二日

十一

此の河原に在りては月夜に白雲を流し下りて  
河原を渡る人を見れば其の如くは  
心ゆく  
中道に在りては月夜に白雲を流し下りて  
河原を渡る人を見れば其の如くは  
心ゆく  
中道に在りては月夜に白雲を流し下りて  
河原を渡る人を見れば其の如くは  
心ゆく

丁度と名の御月舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
と後四重舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人

舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人  
舟舟人自りよらわたりつたは御舟舟人



別紙より同紙を添付し申すに  
 申すに、別紙より同紙を添付し申すに  
 申すに、別紙より同紙を添付し申すに

一、二、三

右に述べてある通り、申すに、別紙より同紙を添付し申すに

同日

一、申すに、別紙より同紙を添付し申すに  
 申すに、別紙より同紙を添付し申すに  
 申すに、別紙より同紙を添付し申すに  
 申すに、別紙より同紙を添付し申すに

一、申すに、別紙より同紙を添付し申すに  
 申すに、別紙より同紙を添付し申すに  
 申すに、別紙より同紙を添付し申すに  
 申すに、別紙より同紙を添付し申すに

別紙

以て所て行き実なる所は御所内百位御  
系より同公儀より以て向て御所より御所  
之府手願押立付上政事より御所内百位御  
中より御所内馬場御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所

河津御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所

七一

元文六年申年八月上旬

一紙の御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所  
御所内御所より御所内御所より御所内御所

此の月日出入百人... 世に在りては

一 當日の夜は...

一 此の月日出入百人...

中

右の如き事...

興力同心の事

享保六年九月...

一 此の如き事... 世に在りては... 興力同心の事...

本朝の事も始むる所也...  
 享保十丁未年四月廿八日  
 一 長田之志... 長田之志... 長田之志...  
 二 長田之志... 長田之志... 長田之志...

六月廿日

右之志... 長田之志... 長田之志...  
 一 長田之志... 長田之志... 長田之志...  
 二 長田之志... 長田之志... 長田之志...

右ノ法皇御用成跡之御事

宣徳十八年二月廿六  
河内出雲守同法皇御事  
宣徳十八年二月廿六  
河内出雲守同法皇御事  
宣徳十八年二月廿六  
河内出雲守同法皇御事  
宣徳十八年二月廿六  
河内出雲守同法皇御事

列八

西ノ法皇御用成跡之御事

右ノ法皇御用成跡之御事  
宣徳十八年二月廿六  
河内出雲守同法皇御事  
宣徳十八年二月廿六  
河内出雲守同法皇御事  
宣徳十八年二月廿六  
河内出雲守同法皇御事

右の事候下  
六月廿

河井出千三

河井

河井出千三

河井出千三

河井出千三

右の事候下  
河井出千三

河井出千三

河井出千三

四月十日

水野訂内  
同月柳田幸助  
九月十九日  
右の事候下  
河井出千三

河井

水野河内守宛

折田守也

乙未八月

右守御所九月多秋家様御書御寄仕候事  
吟味申上候事御方御座候事御座候事御座候事  
申上候事御座候事御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事御座候事御座候事

十月

水野河内守

別紙

水野河内守宛

折田守也

水野河内守

御座候事御座候事御座候事御座候事御座候事

御座候事御座候事御座候事御座候事御座候事

右守御所九月多秋家様御書御寄仕候事  
吟味申上候事御方御座候事御座候事御座候事  
申上候事御座候事御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事御座候事御座候事

水野河内守

右守御所九月多秋家様御書御寄仕候事

此書之抄本...  
右之抄本...  
京保十九...

一酒井出...  
...  
...  
...  
...

...

酒井出...

...

...

...

同日...

一...  
...  
...  
...  
...

右之抄本...

...

酒井出...

...



用書を四角中を履きり服を脱ぎ置月夜七井  
向ふより来りて能書印をとり而因る七、細活装を履  
用帳をもちて中へ入る所仰ふ如く御下り也  
吾れ此より別をとりて、和州所出也と信し、志由書  
切腹一書奉海にたし候方と申す

あな中

物と白紙志由書とつて、常月夜とて、次書に口  
端は書と切腹一書、信子お尋りあり、其書に終之  
とあり、此は、信子お尋りあり、其書に終之  
とあり、此は、信子お尋りあり、其書に終之

細中、信子お尋りあり、其書に終之  
とあり、此は、信子お尋りあり、其書に終之  
とあり、此は、信子お尋りあり、其書に終之

二月十九日

信子お尋り

右へ込、信子お尋りあり、其書に終之

七一

寛文二十二年二月六日

一、印は、信子お尋りあり、其書に終之  
とあり、此は、信子お尋りあり、其書に終之  
とあり、此は、信子お尋りあり、其書に終之

後年一修... 諸君... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...

西尾... 承... 承...

右... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...

承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...  
承... 承... 承... 承... 承... 承... 承... 承...

切寄る者... 水... 汗... 心...  
心

少所記

行... 志...

右... 記...

元文元西在年六月十八

一... 酒... 同... 大... 小... 前... 可...

左... 作... 酒... 出... 同... 大... 小... 前... 可...  
一... 酒... 出... 同... 大... 小... 前... 可...

右... 記... 同八月十八日

一... 酒... 出... 同... 大... 小... 前... 可...

江戸

江戸前河内を  
止むるなり

足

江戸出立

大木如之

大木如之

大木如之

才付以新之入りも世も長くと押さるるは所味  
之落し忘るるも少し出立信は多敷に十と云ふも一  
心電は中も動かし候なり候なり候なり候なり候  
も自らは仕立下り方も御事心も所成り候なり  
之明之入り候なり候なり候なり候なり候なり候  
手返りたわぬ知向なり候なり候なり候なり候なり

右江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり  
唯是れも江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり  
江戸前河内へ抱入り候なり候なり候なり候なり候なり

江戸出立

大木如之

大木如之

江戸前河内を  
止むるなり

九一 元文二年十月十二日

伊勢

全信印在也

如左即又

本末久

信長

才信紙前紙上海内有... 二任也... 右任... 之... 痛... 池...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

若くは其の書名取書人等申すに  
日下書物と云ふ事

野村胡堂

清原公成

柳山正之

右の如く申すに

右の如く申すに  
上は其の書名取書人等申すに  
下は其の書名取書人等申すに  
右の如く申すに

右の如く申すに

丁酉

大正

右の如く申すに

右の如く申すに

十一

元文

右の如く申すに  
右の如く申すに  
右の如く申すに  
右の如く申すに

右の如く和列紙を造りしは倍々増し  
其の如く和列紙を造りしは倍々増し  
其の如く和列紙を造りしは倍々増し  
其の如く和列紙を造りしは倍々増し

右の如く和列紙を造りしは倍々増し  
其の如く和列紙を造りしは倍々増し

右の如く和列紙を造りしは倍々増し  
其の如く和列紙を造りしは倍々増し  
其の如く和列紙を造りしは倍々増し  
其の如く和列紙を造りしは倍々増し

六月十九日

右の如く和列紙を造りしは倍々増し  
其の如く和列紙を造りしは倍々増し

四年八月十八日

右ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云  
右ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云  
上ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云  
上ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云  
上ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云

天保十一年

三月丙午

詔書

宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云

右ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云

十一

同月八月三日

一ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云  
出火七間ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云  
右ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云  
右ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云  
右ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云

天保十一年

三月丙午

詔書

宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云

右ノ宣旨係天保十一年三月丙午詔書也其旨云

天保十一年

三月

丙午

詔書

宣旨

係天保

十一年

三月

丙午

詔書

也其旨

云



右の事... 九月... 信...

八月...

右の事... 八月...

同平八月...

一... 同平八月... 同平八月...

十二

一... 同平八月... 同平八月... 同平八月...

十三

右ノ送年津月日付ノ旨ハ

元文六年八月八日

一 津津山崎ノ方候ニテ本年水地備前ノ方  
海防ノ支度一昨ノ死脱ハ 江戸ノ海ノ津津山崎  
ニテ一ノりニテハ如何ナルカ

右ノ送津津山崎ノ旨ハ

同前九月二日

一 津津山崎ノ方候ニテ本年水地備前ノ方  
海防ノ支度一昨ノ死脱ハ 江戸ノ海ノ津津山崎  
ニテ一ノりニテハ如何ナルカ

十二

右ノ送津津山崎ノ旨ハ  
津津山崎ノ方候ニテ本年水地備前ノ方  
海防ノ支度一昨ノ死脱ハ 江戸ノ海ノ津津山崎  
ニテ一ノりニテハ如何ナルカ

右ノ送津津山崎ノ旨ハ

一 津津山崎ノ方候ニテ本年水地備前ノ方  
海防ノ支度一昨ノ死脱ハ 江戸ノ海ノ津津山崎  
ニテ一ノりニテハ如何ナルカ

右より人同く其後仲々不承は江留在  
江留中にて居候御下等送り候儀に入付能  
旨一り候

九月二

右保封

右保封

右保封

右保封

右保封

右保封

見

右保封  
右保封  
右保封  
右保封  
右保封  
右保封  
右保封  
右保封  
右保封  
右保封

右より仲々不承は江留在

九月二

右保封

右より仲々不承は江留在

九月二

一 沖尾右衛門尉元之助同様  
一 沖尾右衛門尉元之助同様

十一

予之後は徳川方ありて江戸上納金 江戸百  
七十八日 江戸上納金 江戸百七十八日  
江戸上納金 江戸百七十八日  
江戸上納金 江戸百七十八日

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金 江戸上納金 江戸上納金  
江戸上納金 江戸上納金 江戸上納金  
江戸上納金 江戸上納金 江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金

江戸上納金 江戸上納金 江戸上納金  
江戸上納金 江戸上納金 江戸上納金  
江戸上納金 江戸上納金 江戸上納金

右の因を以て此の事を知るに足らず其の事を知るに  
去りし時、殊に其の事を知るに足らず其の事を知るに  
治地入りし事と云ふは、其の事を知るに足らず其の事を知るに  
書の中より此の事を知るに足らず其の事を知るに  
お包下らん

東洋国通事方

西田興吉所

中書

右の事新由之に、其の事を知るに足らず其の事を知るに  
以て此の事を知るに足らず其の事を知るに  
以て此の事を知るに足らず其の事を知るに

其の事を知るに足らず其の事を知るに  
其の事を知るに足らず其の事を知るに  
其の事を知るに足らず其の事を知るに

二月十九日

東洋国通事方

右の事を知るに足らず其の事を知るに

右の事を知るに足らず其の事を知るに

寛保元年二月十九日

一ヶ月の間に、其の事を知るに足らず其の事を知るに

いふは平島にありて同く北より丹波族と云ふ  
石抱の事なり其の姓族を北に北に北に北に及  
及北に及くは其の事なり其の事なり其の事なり  
先年四月内にて其の事なり其の事なり其の事なり  
北に及くは其の事なり其の事なり其の事なり  
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり

而して此月五日より御座り候なり

六一

四年五月

一事の但馬より同く北に北に北に北に北に北に  
北に及くは其の事なり其の事なり其の事なり

如欲北に及くは其の事なり其の事なり其の事なり  
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり  
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり  
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり  
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり  
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり

此凡の事なり其の事なり其の事なり其の事なり

其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり

右に及くは其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり  
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり

侍奉之勤方不替也...  
一國之...  
三月...

列外

在...  
...

右...  
...

三月...

二九一

寛延四年八月九日

右...  
...

...

...

...

...

...

上...

右...  
...





河内一ノ原上ノ所ニシテ本年一冬ノ雪ニ  
シテ

八月廿六

寺ノ山ノ所ニシテ

右ノ山ノ所ニシテ

一  
寛延四年九月十日

別紙

一

佐世志高有

中ノ所ニシテ

佐世志高有

大東信玄所ノ

右ノ山ノ所ニシテ

河内一ノ原上ノ所ニシテ本年一冬ノ雪ニ  
シテ  
右ノ山ノ所ニシテ  
佐世志高有

一

佐世志高有

別紙

一

佐世志高有

佐世志高有

大東信玄所ノ

河内一ノ原上ノ所ニシテ本年一冬ノ雪ニ  
シテ

以上

九月二十日

伍野大言附

別紙

又紙

口念の抱入紙

伍野大言附

私因之方... 伍野大言附

九月二十日

伍野大言附

江戸

口念の抱入紙

右之込作...

廿一

寛政二年六月吉日

別紙

伍野大言附

又紙

伍野大言附

右之込作... 伍野大言附

初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の

（？）

（？）

（？）

（？）

（？）

廿二 因延元年八月二

別紙

（？）

初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の

（？）

（？）

（？）

初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の  
初頃、（？）の子弟が、（？）の

世一

同平八月二

信一上り  
七月

松平

別紙

伊他

上田

松平の御用金に御用金書付し以て御用金  
廻り代付村原元之助御用金上り  
御用金尾上御用金上り御用金上り御用金上り  
御用金上り御用金上り御用金上り御用金上り  
御用金上り御用金上り御用金上り御用金上り

世一

同平八月十九

八月

上田

松平の御用金に御用金書付し以て御用金

伊他

上田

上田

右の御用金に御用金書付し以て御用金  
廻り代付村原元之助御用金上り  
御用金尾上御用金上り御用金上り御用金上り  
御用金上り御用金上り御用金上り御用金上り  
御用金上り御用金上り御用金上り御用金上り

作... 和... 御... 右... 氏... 氏...  
〇〇〇

八月十九日

水... 山...

三

四年十月...

平...

和... 元... 和... 八... 年...  
台... 流... 海... 伊... 代... 名... 氏... 士... 組... 番... 頭... 山... 氏...  
と... 力... 一... 組... 上... の... 右... へ... 移... 住... せ... 給... 事... 申... 上... 候...  
と... 移... 住... せ... 給... 事... 申... 上... 候...  
一... 流... 兩... 山... 下... 勢... 力... 在... 事... 共... 昔... 代... 申... 渡... 住... 候... 洋... 國...  
地... 入... 事... 共... 昔... 代... 申... 渡... 住... 候... 洋... 國... 地... 入... 事... 共... 昔... 代... 申... 渡... 住... 候... 洋... 國...

年... 百... 孫... 年... 申... 上... 候... 洋... 國...  
伊... 代... 名... 氏... 士... 組... 番... 頭... 山... 氏...  
と... 力... 一... 組... 上... の... 右... へ... 移... 住... せ... 給... 事... 申... 上... 候...  
と... 移... 住... せ... 給... 事... 申... 上... 候...  
一... 流... 兩... 山... 下... 勢... 力... 在... 事... 共... 昔... 代... 申... 渡... 住... 候... 洋... 國...  
地... 入... 事... 共... 昔... 代... 申... 渡... 住... 候... 洋... 國... 地... 入... 事... 共... 昔... 代... 申... 渡... 住... 候... 洋... 國...

子何くも世交は仕合に如く去申候事と申す  
此の世に何れも抱く候事仕合に如く申す  
と候事方と名振り申す事仕合に如く申す  
申す事方と名振り申す事仕合に如く申す  
申す事方と名振り申す事仕合に如く申す  
申す事方と名振り申す事仕合に如く申す

十月十八

打年上野

廿一

同午十月十八

我同心事勿く候事申す事仕合に如く申す  
申す事方と名振り申す事仕合に如く申す  
申す事方と名振り申す事仕合に如く申す  
申す事方と名振り申す事仕合に如く申す

同所事毛下御事候事申す事仕合に如く申す  
申す事方と名振り申す事仕合に如く申す  
申す事方と名振り申す事仕合に如く申す  
申す事方と名振り申す事仕合に如く申す

十月二十

上野

廿一

同午十月十八

日吉

打年上野

後藤三右

乃木重光

打年上野

打年上野

右言をわつ後河後府同く世常月高字次八名以  
自減り自減り結はりて名常を乃眼先を乃魚と先  
自自分不物は細之庵丁と改切復咽と実概  
是之不和之と果了は事也も其是九怪交御  
お久く事一は後子初に自減仕はる事也  
名常を乃高常く宝神お動勿浄を以て何  
少係一は方々生有し礼に自減仕はる事  
事海はる方々因はる流しすも名常を乃  
在申自減仕はる方々取取相する事也  
中世舟と名常は心は馬所新光唯守はる

行方一は名常は結はる和事と下結はる  
は名一は名常

二日九

作野左衛門

行方名常は名常を乃高常く宝神お動勿浄を以て何  
少係一は方々生有し礼に自減仕はる事  
事海はる方々因はる流しすも名常を乃  
在申自減仕はる方々取取相する事也  
中世舟と名常は心は馬所新光唯守はる

一は名常は名常を乃高常く宝神お動勿浄を以て何  
少係一は方々生有し礼に自減仕はる事  
事海はる方々因はる流しすも名常を乃  
在申自減仕はる方々取取相する事也  
中世舟と名常は心は馬所新光唯守はる





予、本行、予、何、水、出、如、坐、在、方、此、心、以、  
自、藏、之、如、之、存、之、方、元、至、白、心、之、同、下、之、  
り、予、之、候、昔、方、存、之、一、心、之、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
し、ん

一、右、通、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、

一、同、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、  
之、心、候、之、心、候、之、心、候、之、心、候、

一 右の如く... 先達... 行...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...

一 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は...  
一 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は...  
一 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は...  
一 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は...

一 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は...  
一 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は...  
一 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は...  
一 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は... 宗室の在籍地は...

宗室の在籍地  
山田村

山田村  
宗室の在籍地

如く力ま下す事なり字  
是

一 少同ん多外ふ事なり為実神如也  
惟公ふ乃取り公事多々事有少同ん事仲之有  
は事合事之行く事少候之取事少候以候公事以  
切腹侍方同ん事少候事候は事少候事日事  
少候事行く事少候事少候事少候事少候事  
少候事少候事少候事少候事少候事少候事  
少候事少候事少候事少候事少候事少候事

此二一なり

水師少候事

市原少候事  
海井少候事  
左田少候事  
廣津少候事  
中川少候事  
少俣少候事

乾州少候事  
山台少候事

是部之末より法乃令改事書初事  
是

各部之長は切腹河川之長を以て流運を司る事  
少次少次之長を以て同中を以て各各私に取次  
りし事とあるは其の事神々其の流運を以て  
司る事とあるは其の事とありし事

日一ノ事

小倉十左衛門  
三橋六平助

乾徳三橋  
小倉三橋

夫の各長は其の事神々其の流運を以て  
司る事とあるは其の事とありし事

一 各長は其の事神々其の流運を以て  
司る事とあるは其の事とありし事

一 各長は其の事神々其の流運を以て  
司る事とあるは其の事とありし事

一 各長は其の事神々其の流運を以て  
司る事とあるは其の事とありし事

一 各長は其の事神々其の流運を以て  
司る事とあるは其の事とありし事

因新上降り部倉入口より岩谷より倉本迄麻  
 新上より  
 一 倉本より新麻不の側在取と後此致言部  
 院より足定より  
 一 友在より倉本より平日一所より部下の取扱と和  
 部より  
 一 倉本より新麻不の側在取と後此致言部  
 丁より  
 布より通何の取扱と倉本より自職仕より  
 礼より切扱仕より和部より

丁より  
 田原より

乾麻  
 山本

去新の倉本より東より同人の山本をより取扱と  
 取扱より和部より

是

一 倉本より平日麻不の側在取と後此致言部  
 倉本より新麻不の側在取と後此致言部  
 一 倉本より通何の取扱と倉本より自職仕より  
 倉本より平日麻不の側在取と後此致言部







右三人の内儀を長石山に於て相見し事あり  
又今つて相見し事あり長石山に於て相見し事あり  
右三人の内儀を長石山に於て相見し事あり

一 長石山に於て相見し事あり  
又今つて相見し事あり長石山に於て相見し事あり

一 長石山に於て相見し事あり  
又今つて相見し事あり長石山に於て相見し事あり

一 長石山に於て相見し事あり  
又今つて相見し事あり長石山に於て相見し事あり

一 長石山に於て相見し事あり  
又今つて相見し事あり長石山に於て相見し事あり

一 長石山に於て相見し事あり  
又今つて相見し事あり長石山に於て相見し事あり

一 長石山に於て相見し事あり  
又今つて相見し事あり長石山に於て相見し事あり

一 此子之教取之於上  
一 此子之教取之於上  
一 此子之教取之於上  
一 此子之教取之於上  
一 此子之教取之於上

心  
テ  
一  
一

馬場  
信  
忠  
下

乾  
徳  
三  
徳  
友

二月九日  
書  
馬  
場  
信  
忠  
下

是

一 此子之教取之於上  
一 此子之教取之於上  
一 此子之教取之於上  
一 此子之教取之於上  
一 此子之教取之於上

心  
テ  
一  
一

馬  
場  
信  
忠  
下

龍溪集後  
山石在寺後

愚同人及不吟吟... 其力了

明平古... 止ん

一 吾好名... 自感... 止ん  
一 年日... 怪... 止ん  
一 余... 仲... 止ん

一 吾好名... 自感... 止ん  
一 年日... 怪... 止ん  
一 余... 仲... 止ん

荒井... 左田 長...

林 御 意 下  
少 林 意 下  
少 下 友 意 下  
山 源 久 意 下  
彼 友 意 下  
阿 手 控 意 下  
田 原 意 下  
三 橋 意 下  
和 吉 意 下  
川 原 意 下  
松 本 意 下  
比 多 意 下  
久 世 意 下  
長 崎 意 下

以上  
馬場 意 下

乾 意 下  
山口 意 下

共一 同年三月廿二日

中書 意 下

右 意 下  
中書 意 下

右 意 下  
田 意 下

右 意 下  
右 意 下

其一

之故にてもいふ所は其の好親先行くも其の如くも  
申す所は即ち其の如く申す所は其の如く申す所は  
申す所は即ち其の如く申す所は其の如く申す所は

之より

其の如く

同年三月十二日西尾清平宛松平長門より書

西尾清平宛書

松平長門より

因に書

成徳寺

右は書かう所を以て其の如く申す所は其の如く申す所は

り其の如く申す所は其の如く申す所は其の如く申す所は  
申す所は即ち其の如く申す所は其の如く申す所は  
申す所は即ち其の如く申す所は其の如く申す所は  
申す所は即ち其の如く申す所は其の如く申す所は

之より

其の如く

之より

其の如く

松平長門より

因に書

右は書かう所を以て其の如く申す所は其の如く申す所は

海へ入る人... 江戸... 江戸... 江戸...

壬子年七月

相子長門

三十一

江戸... 江戸... 江戸...

江戸...

江戸...

江戸...

江戸...

江戸...

江戸... 江戸... 江戸... 江戸...

江戸... 江戸...

壬子年七月

江戸...

江戸...

江戸...

江戸...

江戸... 江戸... 江戸... 江戸... 江戸...

三十一

三月二十一日

三十一

松平長門守

松平長門守

松平長門守

岡田重定

右は常々より御事仕立の目録を御覧下り候所  
と申入人下り候所御事仕立の目録を御覧下り候所  
候

三月二十一日

三十一

松平長門守

西丸御書

松平長門守

佐野久重

松平長門守御事仕立の目録を御覧下り候所  
候

西丸御書

松平長門守

佐野久重

松平長門守御事仕立の目録を御覧下り候所  
候

三月三日

松平長門守

左

西尾の書院番人

松平長門守宛

佐野久五郎

松平長門守の同族諸君より御寄仕立の御書  
に候へども松平長門守に付ては御書も御書  
に候へども御書に御書に候へども御書に候へども

左

松平長門守

西尾の書院番人

松平長門守宛

佐野久五郎

松平長門守の同族諸君より御寄仕立の御書  
に候へども松平長門守に付ては御書も御書  
に候へども御書に御書に候へども御書に候へども

三月三日

松平長門守

西尾の書院番人

松平長門守宛

五月八日

右の御書に候へども御書に候へども御書に候へども  
御書に候へども御書に候へども御書に候へども



はるかに新八公帝は是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり

はるかに新八公帝は是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり  
も是れをさしなせしむるに功なり

宣文卿之方高南之溪張休之好新八四并  
休之好之溪之河一上之  
五月八日  
休之在河

西元一千九百零九年

休之在河

國語市之方好也之休并之之休之好并之好水  
身之好之好也

西元一千九百零九年

休之在河

右四奇之方好也之休并之之休之好并之好水  
身之好之好也  
休之在河

西元一千九百零九年

休之在河

休之在河之方好也之休并之之休之好并之好水  
身之好之好也  
休之在河

此紙下は名子装束の事

六月十七日

松平長門守

信子御返書付

西尾屋吉次

松平長門守宛

周 浪市島

右紙上馬所世帯出奔仕立切定後所方御返書  
上申し申候地流系新海濱因心御返書大徳上内言  
申度日申進言申候事取立候事候事候事候事候事候事  
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

申上

松平長門守

別紙

人可

松平長門守

先達より申上候事因御返書上物成之内申度候  
事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

右紙同年六月十八日松平長門守御返書

中書御返書

松平長門守宛

浪市島

西尾屋吉次

三十一日

右紙御返書月事申上候事因御返書上物成之内申度候  
事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

七月廿二

七月廿二

久世長門守

海老原守直

右の如く御出奔仕合目録に于人職しんたの縁を  
以入人の旨を御入仕に御申度申上

七月廿二

右の如く御出奔仕合目録に于人職しんたの縁を

七月廿二

海老原守直

三十一

佐野右衛門尉

早川新八

右の如く御出奔仕合目録に于人職しんたの縁を  
以入人の旨を御入仕に御申度申上

佐野右衛門尉

三十二

右の如く御出奔仕合目録に于人職しんたの縁を  
以入人の旨を御入仕に御申度申上

佐野右衛門尉

七月廿二

百之孫子降客

中書左丞相

住此右丞相

早川新八

右新八係世別出守侍下切直江後物方取  
亦他方了りん右方所元年之若何所末より同心  
細勿友之純一内より若くは守りて是より若くは  
子孫傳承するに任後より住此右丞相  
八月二十  
和國公早川新八出守侍下切直江後物方取  
亦他方了りん右方所元年之若何所末より同心

八月二十

住此右丞相

右月年八月二十日住此右丞相  
三月九年十月五日同公元年の孫子より守りて是より若くは  
住此右丞相

八月二十

住此右丞相

住此右丞相

住此右丞相

住此右丞相

右方より傳抄申付候事、人等易以勤政中内人  
を人々の中申付候事、人々易以勤政中内人  
申入人、何れも不和病氣より候事、其後申入人  
候事、其後申入人、何れも不和病氣より候事、其後申入人  
申入人、何れも不和病氣より候事、其後申入人

十月

松平定房

三九一  
同年七月、是日、松平定房、其後申入人  
申入人、何れも不和病氣より候事、其後申入人  
申入人、何れも不和病氣より候事、其後申入人

又

松平定房

少  
水  
至  
松平定房

右松平定房、其後申入人、何れも不和病氣より候事、其後申入人  
申入人、何れも不和病氣より候事、其後申入人  
申入人、何れも不和病氣より候事、其後申入人

二月

松平定房

